

# 会員と共に「お客さまの喜び」追求

## 市井正之・常務取締役の語る

KNTの今年度の国内旅行分野の方向性、近旅連とのかわり方についてどのようなビジョンを持っているのか。旅連担当役員であり、近旅連会員に深い国内旅行部、団体旅行事業本部カンパニー、地域振興事業部などの担当でもある市井正之・常務取締役に話を聞いた（聞き手・小林茉莉）。

「昨年の状況は、――ケットのお客さまの動きが」

「奈良県で年間を通じて開 地域の好不調に直結したと思 われることだ」

「団体需要では、第1四半 期は一昨年のリーマン・シヨッ クを引きずっている状況

「020億円程度になる見込み

「09年実績の1

「008億円は超え

「1100億円には

「届かなかった。昨

「008億円は超え

「1100億円には

「届かなかった。昨

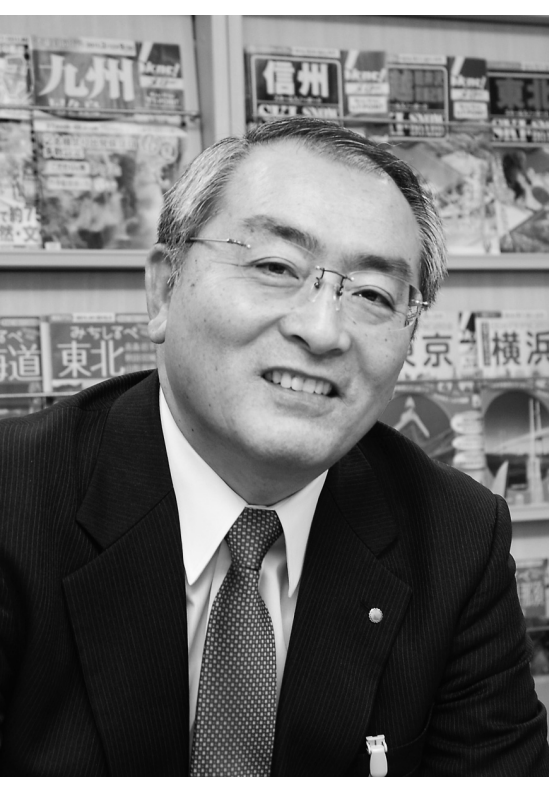
「年は年の後半から

「戻上がりに販売が

「伸びてきたが、前

「半の苦戦をカバー

「するには至らず目



市井正之氏

「教育ECCが伸びてき

「た要因はどこにあるのか。

「当社の教育

「旅行などを9割

「以上取り扱って

「いる団体旅行事

ECC（イベント・コンベン

「シヨッ・コングレス）分野な

「どはさまざまな全国持ち回り

「の大会などにおいて、それぞ

「れの地域で受注できる地方が

「ついてきたと考えており、こ

「の分野は順調に伸びたと評価

「宿泊券の販売状況は。

「昨年比1%増の1

「020億円程度になる見込み

「として意思決定もスムーズで

「あり、お客さまに対する良い

「サービスの提供やスピード感

「ある経営展開ができてい

## ビジネスパートナーとして

## 議論し合える関係づくりを

意識付けのためだ。また同セ

「先々の営業戦略を見渡せるよ

「うになった影響が大きい」

「北海道、九州の団体部門

「の分社化もプラスに働いた。

「両社とも昨年1月からスター

「トした。地域カンパニーの強

「みとしての地域密着を社長自

「らが見てく、お客さまとの

「距離感も小さくなった。企業

「としての意思決定もスムーズで

「ある。お客さまに対する良い

「サービスを提供するスピード感

「ある経営展開ができてい

「る。2社とも分社当初計画した目

「標を達成できるようになって

「きた。特に九州では宮崎での

「人口減少の影響もあり、契約済

「みの団体が取り消しになるな

「どしたのだが、結果を残せた

「のはこういう営業方針の結

「果だろう」

「昨年初めて、各地の仕

「入センターを「仕入販売セン

「ター」という名前に変えたり、

「若い社員を入れたりした。

「「箇所の名前を変えたのは、

「仕入の担当社員も販売に積

「極的にかかわらせる」という

「地区の双方での送客に取り

「組んでいる。昨年も苦戦した

「北海道については、インバウ

「ンドなどで個別に施策を投入

「しながらお客さまにアピール

「していきたくと考えている。

「企業の3月決算も好調な決算

「が多くなることを期待される

「ため、企業法人系の需要も回

「復軌道に乗るはずだ。さまざま

「に挑戦する。今年はインバウ

「ンド強化による宿泊券の販売

「拡大に取り組んでいく。イン

「バウンドの取り組みは、地域

「の大雪、霧島・新燃岳の噴火

「など自然災害の発生による逆

「風も考えられるが、企業業績

「の回復を団体需要になんとか

「結び付けていきたい。第1四

「半期のスタートでも手ごたえ

「を感じており、期待して取り

「組んでいきたい」

「「また今年の最大のトピッ

「クは法然上人800年、親鸞

「聖人750年の遠忌法要だ。

「国内一般団体としては非常に

「大きなウエートを占めるし、

「グループ各社の数字にも大き

「く貢献できる。しっかり取り

「組んでいく。団体旅行では通

「年で13万5千人を目標にして

「いる。法要は3月から始まる

「が、今秋に実施する教区など

「はこれから募集を行うため、

「実際にどれくらい参加いた

「けるかはこれからだ。ただス

「タートの段階では順調で、海

「外のお客さまからもお申し込

「みをいただいている」

「――宿泊券の目標は。

「今年こそ達成ということ

「で、再度1100億円の目標

「に挑戦する。今年はインバウ

「ンド強化による宿泊券の販売

「拡大に取り組んでいく。イン

「バウンドの取り組みは、地域

「の大雪、霧島・新燃岳の噴火

「など自然災害の発生による逆

「風も考えられるが、企業業績

「の回復を団体需要になんとか

「結び付けていきたい。第1四

「半期のスタートでも手ごたえ

「を感じており、期待して取り

「組んでいきたい」

「「また今年の最大のトピッ

「クは法然上人800年、親鸞

「聖人750年の遠忌法要だ。

「国内一般団体としては非常に

「大きなウエートを占めるし、

「グループ各社の数字にも大き

「く貢献できる。しっかり取り

「組んでいく。団体旅行では通

「年で13万5千人を目標にして

「いる。法要は3月から始まる

「が、今秋に実施する教区など

「はこれから募集を行うため、

「実際にどれくらい参加いた

「けるかはこれからだ。ただス

「タートの段階では順調で、海

「外のお客さまからもお申し込

「みをいただいている」

「――宿泊券の目標は。

「今年こそ達成ということ

「で、再度1100億円の目標

「に挑戦する。今年はインバウ

「ンド強化による宿泊券の販売

「拡大に取り組んでいく。イン

「バウンドの取り組みは、地域

「の大雪、霧島・新燃岳の噴火